

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「せつめいする 文しょうを よもう」 教材名「じどう車くらべ」

2 単元の目標

- (1) 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解し、文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。(〔知識及び技能〕(2)ア・(1)力)
- (2) 「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉え、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(C(1)ア・ウ)
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(第1学年及び第2学年の目標(3))

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ②文の中における主語と述語との関係に気付いている。(1)力)	①「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ②「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	①進んで、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉え、学習の見通しをもって、乗り物のはたらきと作りについて分かったことを友達に話そうとしている。(粘り強さの「進んで」、学習の調整の「学習の見通しをもって」、重点とするC(1)ア、言語活動のC(2)アを含めた、国立教育政策研究所の参考資料の形)

4 指導上の考察

(1) 単元について

本教材は、乗り物ごとに、はたらき(しごと・役目)と、それをするための作りを同じ順序で説明する文章である。いくつかの乗り物が同じ順序(はたらき、作り)で並び、はたらきと作りは理由や目的を表す言葉でつながっている。学習指導要領第1学年及び第2学年のC(1)ア「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えること」と、C(1)ウ「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと」を働かせるのに向いている。乗り物どうしを比べると、はたらきが違々と作りも違うことが見えるので、〔知識及び技能〕(2)アの、共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係の理解とも結び付く。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、低学年の読むことの中心が「順序を考えながら内容の大体を捉える」ことなので、細かい語句の解釈ではなく、文章の並び方とつなぐ言葉を見つけることに力を注ぐ。問いは1つずつ出し、はたらきを書いた文に青、作りを書いた文に赤の線を引かせて、何を探しているかが目で分かるようにする。表は「乗り物の名前」「はたらき（何をする）」「作り（どんな形・部品）」「つなぐ言葉」の形を単元の終わりまで同じにし、1つ目の乗り物は全員で、2つ目は自分で見つけ、3つ目以降は自分で表を埋める見通しをもたせる。発問を減らす代わりに、線を引く・表に書く作業で子どもが答えを出す形にする。挿絵で答えた子には「どの文に書いてある？」と聞いて文章に戻す。

5 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教師の範読を聞き、知っている乗り物を言い合う。 ○全文を音読し、出てくる乗り物の名前を順に確かめて、乗り物ごとのまとまりで書かれていることをつかむ。 ○はじめのまとまりで、何について書いた文章かを一言で言う。	態①（行動観察） (1)ク（音読の観察）
第2次	2	○1つ目の乗り物のまとまりで、はたらきを書いた文と作りを書いた文を見つけて線を引き、表に書き写して、つなぐ言葉を囲む。 ○音読で、主語を指で押さえて述語を読む。	思②（線引き・表） 知②（音読・発言）
	3 （本時）	○1つ目で学んだ順序を使って、2つ目の乗り物のはたらきと作りを書いた文を自分で見つけ、つなぐ言葉を選び出す。	思①・思②（線引き・表・発言）
	4	○3つ目以降の乗り物も同じ手順で自分で読み、表に足す。	思①・思②（表）
	5	○表を見て乗り物どうしを比べ、はたらきが違ふと作りも違ふことを話し合う。	知①（表の見出し・発言）
第3次	6	○学校図書館の図鑑から乗り物を1つ選び、「はたらき」「作り」の順で短い説明を書く。	
	7	○書いた説明を読み合い、乗り物のはたらきと作りについて伝え合う。 ○学習を振り返る。	態①（発表・振り返りカード） C(1)カ（共有の様子）

6 本時の指導 (3/7)

(1) 本時の目標

1つ目で学んだ順序を使って、2つ目の乗り物のはたらきと作りが書かれた文を自分で見つけ、つなぐ言葉を選び出せる。(C(1)ア・ウ、(2)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時に作った1つ目の乗り物の表を見て、はたらきと作りを全員で言い直す。 ○「何のはたらきをしていましたか」 ○「そのためにどんな作りでしたか」 2 本時の問いをつかむ。 ○「今日は2つ目の乗り物です。1つ目と同じ順番で書いてあるでしょうか」 【めあて】2つ目の乗り物も同じ順番で書いてあるか、確かめよう。 3 2つ目のまとまりを全員で音読する。	・前時の表を黒板に貼り、1つ目の行は残して2つ目の行を空けておく。 ・作業の前に全員で音読して、文字を追うのが遅い子も同じ所から始められるようにする。
展開 (分)	4 はたらきを書いた文を一人で探し、青で線を引く。 ○「はたらきを書いた文はどれですか」 5 作りを書いた文を探し、赤で線を引く。 ○「作りを書いた文はどれですか」 6 隣の人と線を見せ合い、違う所を文章に戻って確かめる。 7 全体で発表し、黒板の表に書き込む。 8 はたらきと作りをつなぐ言葉を見つけて囲む。 ○「はたらきと作りは、どの言葉でつながっていますか」 〈予想される児童の反応〉 ・はたらきの文に線を引く。1文ずれて引く子もいる。 ・挿絵を見て答える。 ・はたらきと作りを逆に言う。 ・理由や目的を表す言葉を見つける。	・問いは1つずつ出し、線の色を分けて何を探しているかが目で分かるようにする。 ・はたらきと作りを混ぜる子には「それは何をするための文?」「形や部品のこと?」と聞き、区別を言葉で言わせる。 ・絵で答えた子には「どの文に書いてある?」と聞いて文章に戻す。 ・早く終わった子には「1つ目と同じ順番だった?」と聞いて比べさせる。 ・ICTがあれば本文の該当部分を大きく映し、線を引く操作を全員に見せる。どの文かを全員で確かめやすくなる。 ・つなぐ言葉は、使う教科書で確かめて先生が書き入れる。 ◎思② 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(線引き・表)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （ 分）	9 表を見ながら、2つ目の乗り物のはたらきと作りを隣の人に一文で言う。 10 学習をまとめる。 【まとめ】2つ目の乗り物も、はたらき、つなぐ言葉、作りの順で書かれている。 11 振り返りカードを書く。	・振り返りカードには「今日分かったこと」と「次は自分で見つけられそうか」を短く書かせる。丸を付けるだけでもよい。 ・表は単元の終わりまで同じ形を使い、3つ目以降は自分で埋める見通しをもたせる。 ◎思① 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。（隣の人への説明・表）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端：日付・題名とめあて（2つ目の乗り物も同じ順番で書いてあるか）。

中央：表。乗り物ごとに右から段を分け（右に1つ目、左に2つ目）、それぞれ上から「乗り物の名前」「はたらき（何をする）」「作り（どんな形・部品）」「つなぐ言葉」を書く。1つ目は前時の物を残し、2つ目を今日書き込む。

左端：今日のまとめ（はたらき、つなぐ言葉、作りの順で書かれている）。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

